

広域防災フロートを被災地に迅速かつ円滑に派遣する訓練を実施しました！

築港課・室蘭港湾事務所

広域防災フロートとは？

施設規模	長さ:80m 幅24m 高さ4m
上甲板	<ul style="list-style-type: none"> ・避難、物資輸送のための1,000t級船舶の接岸可能 ・ヘリポートとして利用可能 ・復旧支援用車両の乗入可能
第二甲板	<ul style="list-style-type: none"> ・避難、物資輸送のための漁船等小型船の接岸可能 ・物資格納用の貨物室を装備



室蘭開発建設部所有の広域防災フロートは、日本で唯一外洋に出られるものであり、平成23年の東日本大震災時には、被災地に緊急支援物資を運んだ後、常駐し、被災した岸壁の代わりに作業船の係留施設として活躍しました。
 平常時は、港湾工事の資材置き場となる台船として活用し、工事のコスト縮減を図っています。

12月9日～10日、各関係機関で構成される「広域防災フロート派遣協議会」は、毎年各地で大規模な自然災害が発生している状況を踏まえ、岩手県で地震が発生した事を想定し、被災地への派遣決定に至るまでの情報連絡訓練や、必要な諸手続、安全管理等について関係機関が集合し協議を行う机上派遣訓練を行い、一連の流れを確認しました。

「広域防災フロート派遣協議会」構成機関：
 室蘭開発建設部、室蘭労働基準監督署、室蘭海上保安部、室蘭運輸支局、北海道胆振総合振興局、室蘭市港湾部、室蘭市消防本部、室蘭港湾振興会、（一社）室蘭建設業協会、（一社）日本埋立浚渫協会北海道支部

